

入学定員合計	255 人	合計	269 人	236 人	109 人
備考	<p>・「免許状取得者数」欄の、左側には各学科の実人数を、右側には学科内の教員免許課程ごとの人数を記載している。</p>				

右欄の指摘等にかかる現在の状況		委員による指摘又は指導・助言等
全般的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質能力を養成するため、教員養成に関する授業科目の内容を、学生に具体的に提示し、大学教員全員がその内容を共有している。平成17年度に、大学共通の目標資質基準(学生が最低限身に付けるべき知識・技能、実践力等)を設定し、各科目ごとに設定されている目標資質基準に関する授業実態調査とその分析を行っており、平成18年度以降も引き続き、この取り組みを継続発展させている。 ・一部の授業科目のシラバスの中で、授業科目の目的が、授業計画に適切に反映されていない科目が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成10年の教育職員免許法改正の趣旨を踏まえ、より一層、教員養成の維持向上を期待する。 ・卒業後のフォローアップ、免許状取得者の品質保証が今後期待される。 ・学修履歴を把握し、教員養成、卒業後の採用・研修の場において、大学と卒業生との連携が望まれる。 ・シラバスは、教育に対する姿勢・考え方を具現するものであり、教員養成大学として見本になるようなシラバスを期待する。
教員養成に対する理念等	<ul style="list-style-type: none"> ・特記事項なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特記事項なし。
教育課程	<p>教職に関する科目等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導法などに学校教育教員経験者が大学教員として配置されている。 ・以下の各科目については、教育職員養成審議会第1次答申の趣旨を踏まえておらず、不十分である。 ・授業科目「現代教師論」に「進路選択に資する各種の機会の提供等」が含まれていない。 ・授業科目「教育基礎論Ⅰ」について、教育の理念に係る内容が、2回のみ。 ・授業科目「教育心理学」に、「障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」の内容が含まれていない。また、教師の適性・理想像に係る内容が含まれている。 ・授業科目「教育課程と授業」において、学校全体に係る内容が含まれていない。 ・授業科目「教育方法・メディア」のうち、一部の授業内容がメディア教育などの情報関連に偏っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育教員の経験者については、大学教員として、実践経験を理論として教授できる資質を有しているかどうかという観点から、適切に配置すること。 ・各科目については、教育職員養成審議会第1次答申の趣旨を踏まえ、各授業内容を早急に検討し、改善を図ること。 ・授業科目「現代教師論」に、「進路選択に資する各種の機会の提供等」を含めること。 ・教育とは何かという理念に係る内容を行うこと。 ・「障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」の内容を含むこと。また、教師の適性・理想像等については、「教職の意義等に関する科目」における授業科目に含めること。 ・学習指導要領の全体の方向性、地域社会と連携した学校の在り方、学校全体に係る内容や他教科との連携などを、カリキュラム編成に反映させることが必要である。 ・教材開発・教授方法等を広く捉えて、教育内容を再検討すること。

個別的事項		<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目「幼児と健康Ⅱ」については、健康領域についてのねらいなどを踏まえ、実践的な内容を実施している。 ・授業科目「中等教科教育法 家庭Ⅳ」の内容が、キャリア教育のみの内容となっている。 ・授業科目「道德教育の研究」について、理論を中心とした内容になっている。 ・授業科目「教育相談」の内容の一部で、特別な問題を持つ児童生徒への対処や、スクールカウンセラー養成のためのものに内容が偏りすぎている。 ・授業科目「生徒指導(進路指導を含む。)」に含まれている進路指導の内容が、授業計画のうち1回のみである。 ・授業科目「総合演習」が、「総合的な学習の時間」の指導法的な内容や、各教科の指導法の内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目「幼児と健康」については、ⅠとⅡを選択必修としているため、Ⅰを必修とし、Ⅱは選択あるいは選択必修とすること。 ・授業科目「中等教科教育法 家庭Ⅳ」については、家庭科指導法として適切な内容に修正すること。 ・指導法として、学校教育現場で道德をどのように教えるのかという、指導法の内容が含まれていないため、内容を変更する必要がある。 ・授業科目「教育相談」は、教育相談の基本的な資質能力を育成するため、基本的な理解を学修すべきものであり、内容を修正する必要がある。 ・進路指導については体験型キャリア教育を取り入れるなど、複数回実施してほしい。 ・授業科目「総合演習」の内容については、教育職員養成審議会第1次答申の設置趣旨を踏まえ、学生の視野を広げるため、社会問題、国際問題等多角的な視点で捉えた内容とすること。
	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の受け入れは、附属校を中心に行っている。 ・実習期間中に、大学教員による適切な指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・附属校のみならず、県内の協力校においても実施することを今後、検討してほしい。 ・実習生の実力が不十分な場合には、最小限の資質能力が身に付いていることを確認するために、今後とも事前に十分指導を行うこと。
	教職指導、介護等体験等	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科教員養成教育プログラムを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科教員の養成に今後とも注力してほしい。
	免許状取得状況及び教員就職状況	<ul style="list-style-type: none"> ・特記事項なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特記事項なし。
	施設・設備の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館、情報処理センターのように独立したものではなく、学術情報研究センターとしてトータルな施設がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館に、各種各年代の教科書が多数収蔵されている。また、教育資料館には、明治初期の教科書についても展示されており、貴大学の特色である。